

沖縄の旬な情報と人をご紹介しますラジオ番組のフリーペーパー

paperRADIO

Free

# ウチナータイム!



No.30  
9月  
2018

## 石川陽子 唄者



【第331回】  
インタビュー  
9月5日(水)  
再放送8日(土)

石川陽子 いしかわようこ

沖縄出身の両親の元、大阪で生まれる。その後すぐに沖縄に戻るが、小学校4年生の時、再び大阪に移った。大阪では、祖母の経営する沖縄料理屋にて三線をおもちゃ代わりに育った。高校生の頃には近所の民謡研究所に通うも、次第に故郷沖縄で本格的に学びたいと思うようになる。23の頃沖縄に戻り、琉球民謡協会師範の大城志津子師匠の門を叩き、住み込みしながら沖縄音楽を学ぶ。その後、大城志津子門下の情歌の名手・金城恵子師に付き、歌、三線、ステージでの聴衆との駆け引きなどを身近で学ぶ。また、異色の芸歴を持つ舞踏家・多嘉良和枝師のもとで発声や踊りの所作などの指導を受け、琉球芸能に邁進する。現在、琉球民謡協会教師の資格を持ち、本土と沖縄を歩き来してライブと三線指導者として所狭しと忙しく走り回っている。

石川陽子のスタイルは、古くから歌い継がれる楽曲を中心に、語り掛けるように歌い、聴く人の心に直接メッセージを投げかけ、また色艶のある声で歌い上げる女性らしい美しさを持つ一方で、実直で芯の強い男勝りな部分を併せ持ち、力強い三線や太鼓を奏でる姿と併せて、その個性的なスタイルはライブに訪れた人を魅了してやまない。



三味の喜び 石川陽子  
沖縄民謡界期待のホープ、  
初のソロ・アルバムをリリース！  
師匠、大城志津子に捧げる一枚！

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1. 大木カジュマルや       | 9. アンチャンメー       |
| 2. 三味の喜び          | 10. 永良部恋歌        |
| 3. じゅり馬(馬舞者〜じゅり馬) | 11. よー加那ヨー       |
| 4. 新ディグぬ花         | 12. 山浦ぬ眺み〜比謝川ぬ流り |
| 5. 観光バナリ島         | 13. 千鳥小          |
| 6. 朝花〜ちんちく竹       | 14. 若水           |
| 7. 大城アッチャメー小      | 15. 永良部の子守唄      |
| 8. トーガニー〜泊高橋      |                  |

2018.9.5. Release.  
¥2,800 (税別)  
リスペクトレコード

### ラジオの聞き方

スマートフォンで聴く場合、アプリは不要！！  
パソコンと同じ URL をスマホからアクセスするだけで聴けます。

<https://fm-odawara.com>

毎週水曜 19:00~20:00 再放送 毎週土曜 18:00~19:00

f ハイサイ!  
ウチナータイム!

FM おだわら

で検索!

FM 78.7MHz  
おだわら  
<http://fm-odawara.com/>





RPC＝琉球パフォーマンスコネクション

さあ、前回はアメリカ修行のタイムズスクエアグリパフォーマンズについて記事にしましたが、セキユリティに声をかけられたその後の続きを書きたいと思います。(読んでない方は月号をチェゲラしてくださいませ)セキユリティは続けて僕にこう言い

## たるーの島唄コラム 第十八回 シマウタと「水」

今年の夏は改めて水の恐ろしさを感じた。西日本各地ではあの「月の豪雨」により土砂崩れや川の氾濫などでとてもない被害をもたらした。豪雨の後はあちこちが断水した。水の「恐ろしさ」と「ありがたさ」の両面を同時に思い知らされた災害だった。さて本コラムではシマウタの中で「水」はどう扱われているのか。改めて沖縄各地の「水」をテーマにしたウタを見てみよう。

多くが隆起石灰岩でできた琉球の島々もまた水には悩まされてきた。雨は石灰岩の地面に吸収されていく。梅雨と台風の時節はしっかりと雨が降らせるが、それ以外の真夏と秋に雨が降らない日が多くなると干ばつになりやすかった。「雨乞い」のウタは宮古島、八重山地方に多い。石垣島の雨乞いの古謡に「

雨とうさならぬゆう 水とうさならぬゆう  
雨さありどう すだちやり 水さありどう  
すだちやり  
(雨が遠くて何もできない。水が遠くてなにもできない。雨や水があるからこそなんでも育つ。)

切実な訴えだ。具体的理由を説明して神に雨を降らせてほしいと懇願する。

宮古島にも「タイチャー」というウタと集団踊りがあり、昔は「雨乞い」の意味を込めて村全員で神に懇願した。

八重山民謡の「トブラーマ」でも「水」は大事なテーマだ。

川ぬ水や海にどうたまる 我んが思いやうらにどう染まる

川の水は海にだけ流れてたまる、そのように私の想いはあなたにだけ染まる。あなただけを想う気持ちには海に向かって流れていく川の水のように

沖縄本島のウタに目を移そう。本島は山や川もあるからか、雨乞いのウタは少ない。

あぶし越える水やうやぎりば止まる 我した二才達ぬ止めぬなゆみ

田んぼの畦を越える水は土を盛り上げれば止まるけど我々の村の青年たちの勢いは止められない。村の若者パワーは大雨の後の水の勢いよりも強くあってほしいと願った。

流りゆる水に桜花浮きて 色美らさ

ました。その君は何をやるんだ？僕は「フリースタイルバスケクトボールだよ」と伝えると、「ふーん、バスケねえ。まあ、やってみなよ」と明らかに馬鹿にした感じ。でも、セキユリティのお墨付きをもらえた二度とないチャンス！そこで縁筆書家の「ONANA」にバスケットボール「フオーマー」のタイムズスクエアでのパフォーマンスが実現しました。興味深々な態度が気持ち良かった。笑あの場所でパフォーマンスをやった思い出、描いた「書」は一生の宝物です。このタイムズスクエアの経験やアメリカでの経験を通して感じたことは、「自己アピールの大切さ」でした。「自己アピールやったら怒られる。でも、やりたい、やらせてほしい。ダメ元で突撃してみよう。言うのは無料(タダ)。でも動き出さなければ何も始まらない。どれだけ凄いいスキルを持っていよう。自分で動かなければ何も起きない。誰かに拾ってもらおうなんて甘い考えは通用しない。スキルがなくても積極的に自己アピールした奴が尊重される。俺はここにいろ！ってドンドン

発信する。それが未来に繋がるってことをアメリカでの経験を通して感じました。アメリカでは「オーブンマイク」という飛び入り可能なステージが結構あって、そこにも行きました。オーブンマイクでパフォーマンスさせてくイのみ！と言われて門前払いでした。笑笑

でも、突撃しなければやるかどうか分からない。あの行っておけば良かった、、、、なんて後悔はしたくない。アメリカでの「一分」時間は全てチャレンジするための時間でした。日本にいてもその気持ちを持ち続けることが出来れば、きつともっと成長できる。まだまだ書きたいことはありますが、また次回。今回も読んで頂きありがとうございます。

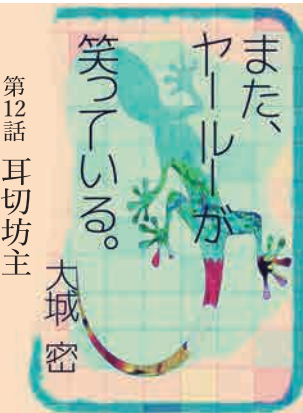
あてどすくて見ちやる

女流詩人古屋チルーのウタ。流れる水に桜の花びらが浮かんでいるが、その色があまりにも美しいので手ですくってみる。優雅なウタに聴こえるが、チルーは8歳で遊郭に売られ15歳で亡くなった。その人生を思うとうつすらとした桜の色にさえ悲しみが込められているように感じ

シマウタと「水」を見てきた。どんなテーマであれ水は「命」に通じる。私たちの身体の水が水で出来ている以上はそれに頼らなければ生きてはいけななし、その水も少なすぎても多すぎても干ばつや災害となる。水の流れは天と地と海を循環し、まるで人の一生そのものでもある。水にまつわる叫びや喜びや愛情はウタとなつて生まれ、その時の人々が命を失つても次世代につながっていくのである。

たるー(関洋)

宮崎県生まれ、広島在住。琉球民謡協会教師。ネットおなじみの「たるーの島唄まじめな研究」の著者。島唄の訳と解説をして10年！広島で三線教室や「OCH」果報バンド」を主宰。



おおしるひそか 那覇市出身、東京都在住。「スマホ小説大賞 2014」にて『私アプリ』が角川ホラー文庫賞を受賞。「第2回ノベリスタ大賞」にて『EGGMAN』が準大賞を受賞。2017年『下町アパートのふしぎ管理人』シリーズが角川文庫より刊行されている。

第12話 耳切坊主

今から三十年以上前の子供の頃の話だ。今では禁止になっているが、その頃の僕たちは、休みの日に首里城の前にある龍潭池で釣りをするのが流行っていた。

龍潭池の前には博物館があり、その近くには釣具店があった。僕はそこで竹竿と餌を買い魚を釣るのだ。僕らはよく、ノリーとドンちゃんという友達と釣りへ出掛けていた。

ドンちゃんはテレビアやフナなどの魚を釣るのが上手かった。しかしそんなドンちゃんがいともよりも元気がないことが気になった。「どうしたの？」

水しか入っていないバケツを静かに見つめるドンちゃんへ僕は声を掛けた。ちょうどノリーの竿先が激しく揺れた。テレビアの強烈な引きだ。「今日はさ、そば食べに行くのやめんか？」とドンちゃんが呟いた。

「どうして？」

僕は釣りをした後、魚をリリースしてから、龍潭池の前にある沖繩そば屋に行くのがお決まりだった。そのお店は僕の親戚のおじさんの、さらに知り合いがやっていて、僕は二百円さえ持つて行けば、ソーキそばの小と、水ぜんざいを食べさせてもらえた。「行きたくないんだ。お腹空いてないし」

嘘だと分かる。ドンちゃんは僕らの中で大食いであることを言うわけがなかった。ドンちゃん昨日の夜、おとうから怖い話聞いて、しかにいるだけだよーよーノリーはテレビアをギリギリのところで逃がして悔しがりながら言う。

「怖い話って、そんなの別に平気やし」と言いつつも、怖い話が好きな僕はどんな話か聞きたくなっていた。「ゴウ、耳チボージって知ってるか？」

ドンちゃんは青ざめた顔で言う。

僕はその話を知っていた。昔々の話だ。

簡単に説明する。波之上にあるお寺に黒金座主という肌が黒く巨軀の坊主がいた。優秀な坊主だった彼女が悪さをしていた。それを聞きつけた北谷王子という人物が碁の勝負をした。その碁に勝った北谷王子は賭けの代償として黒金座主の両耳を切り落とした。

その後、黒金座主は死に、彼は「耳切坊主」として、大村御殿の角に立つようになった。そして、その大村御殿跡の角こそが、僕らがいつも行く沖繩そば屋の真ん前なのだった。耳切坊主は北谷王子の家系を呪い続ける存在になり、さらに耳切坊主は悪さをする男の子の耳を刀や鎌で切ると言い伝えられていた。『そんなただの昔話さー。信じんけー！』僕はドンちゃんの肩を叩いた。だがドンちゃんの様子

ちんだみ日和 by 田所ヨシキ

18 よんなーよんなー

「よんなーよんなー」  
【意】ゆつくりゆつくり。のんびりと。  
沖繩に通い始めたばかりの頃、見るものすべてが珍しく、数日の滞在中に出来るだけ多くのものを見たくてあくせく走り回って

いた。  
首里城！  
離島！  
タコライス！  
そばーテビチー！  
エイサー！  
ゆつくりして行きなさい！

す、すみません！  
次の予定があるもので……  
でもある日、海の上をゆつたりと流れる大きな雲を見ていてふと思った。  
こんなにゆつたりと時間が流れている沖繩であくせくしているのはなんでもったいないことなんだろうと。

何やらおかしな話だ！  
我ったー今回出番なしねー

そして心に決めたのです。  
『あくせくしない』と。  
『よんなーよんなー』ってそんな感じ。

「俺さ、昨日妹のおもちゃ壊したんだよね。そしたらおとうが耳切坊主が来るって言ったんだ。何度も何度も謝つたのに、許してもらえなくてさ。でも俺だつたらなんで」  
「じゃあさ、あそこ立っている見えるか……」  
ドンちゃんはまだ目線を動かさずにその沖繩そば屋の前の角を指差した。  
「うん？」ノリーが竹竿を置き、指差された場所を見る。「あい、でーじなとん」ノリーが目を見開く。数歩後ずさり、龍潭池へ落ちかける。僕はノリーの手を慌てて捕まえる。僕も遅れてその場所を見た。  
そこには大男が立っていた。赤黒い顔に坊主頭。汗だくの体には血がべったりと付いていた。  
大男は鎌を持ったまま、こちらをじつと見ていた。「やつぱり見えるのか、あれは耳切坊主だ……。俺を狙っているんだ」  
ドンちゃんも怯えながら耳を塞いだ。  
そして恐怖を払うように頭をぶんぶん振った。ドンちゃんは大声を上げて、耳と塞いだままその場で丸まった。  
僕はドンちゃんに声を掛ける。何度声を掛けても、耳を塞いだドンちゃんには僕の声が聞こえないようノリーがうろたえるドンちゃんの前腕を無理矢理に耳から引き放す。  
「えー、話聞けってば」ノリーが叫ぶ。  
ドンちゃんはおも耳を切られないように、手で隠そうとする。僕は急いでドンちゃんの前腕に近づき再び声を発した。  
「ドンちゃん、あれは耳切ボージじゃない！ 僕の親戚のおじさん！ ほら、僕に手を振っている！」  
「……え？」ドンちゃんの前腕は正気を取り戻し顔を上げた。  
「おーい、コーウー！」  
おじさんは和やかに僕に手を振っていた。後から聞いた話だと、おじさんは夏が近づき元気に生えはじめた近所の雑草を刈っていただけだった。  
その後、僕らはおじさんからソーキそばをこっそりうになった。  
友達の前で恥をかいた赤い目をしたドンちゃんはおじさんを恨むように見ながら、ソーキそばをすすっていた。

沖繩をテーマとした3分で読める読み切り  
超短編小説シリーズ。次回も お楽しみに！